

マザーハウス

たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。

あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。



移送・出所される方は、必ずご一報ください。

2019

9 月号

表紙：光りんさん

「目標は、ひとつ。狙いを定める！」

- 2 理事長挨拶
- 4 社会の声
- 11 育児日記
- 12 ささきみつおコーナー
- 13 Lovely DAYS

- 14 塀の中のたより
- 21 健康相談窓口
- 22 つぶやき！
- 22 プリズムアート倶楽部
- 23 回復プログラム 入門
- 23 行事予定
- 23 お知らせ

理事長挨拶

皆さん、暑さも和らいできましたが、いかがお過ごしでしょうか？

マザーハウスでは、スタッフたちと川に行き、バーベキューをしたり、泳いだり、仲間たちと楽しいひと時を過ごしました。私自身も、家族と一緒に海やプールに行き、楽しい夏休みを過ごしました。

次女のRは、水が怖いようで、全く入ろうとせず、抱きついてきます。それでも一緒に水遊びをしました。A君とKちゃんは大はしゃぎでした。子どもたちとのひと時を過ごすことができ、感謝です。留守番をしてくださっていたスタッフに感謝です。

受刑者の皆さん、残念なことに、東京保護観察所の墨田区担当の藤井さんは、受刑者の更生に関して全くやる気がないようで、身元引受もことごとく不許可の決定を出してあります。再三、関係機関に抗議をしていますが、再犯防止推進法を遵守する気が法務省にはな

いようです。引受不可の決定については、下記の連絡先に問い合わせをしてください。マザーハウスが不許可にしているわけではありません。

T100-0013

東京都千代田区霞が関 1-1-1

東京保護観察所 墨田地区担当 藤井観察官

保護観察官であるならば、満期出所者の多くが、帰住するところがなく、再犯率も高いということをよく知っており、出所が近くなると、精神的に不安定になる受刑者が多くいるということも分かっていると思いますが、一向に対策や改善をしようとしません。私からしたら、目の前の受刑者が死のうが生きようが、関係ないと思っていますように感じます。再犯防止のためには、社会との繋がり、土台が大切です。自分のことを引き受けてくれる人がいる。待っている人がいる。社会との繋がりがある。更生・回復の第一歩として、このことを体験することが重要であると感じます。

本気で更生したい方は、満期で社会復帰してからマザーハウスで受け入れますので、ご連絡ください。ただし、手紙だけでなく、必ず出所日の朝にもお電話ください。「行く」と言っ来ない人がたくさんいるからです。マザーハウスを利用してでも更生・回復はできません。支援されて当たり前ではないのです。そのことを良く考えるべきだと思います。

先日、カトリック高松教区の諏訪司教からの招きで、司教館に一泊し、司教と家族みんなと一緒に食事をし、翌日、徳島教会に行き、阿波踊りを見学し、夜は司教と家族で過ごし、次の日に青少年の集いで、講演と分かち合いをしました。

東京に戻ると、徳島教会で出会い、帰りは空港まで送って頂いたブラザー八木からお手紙が届きました。その内容を紹介いたします。私にとって、生きた言葉をかけてくださったと感じます。

「先日は徳島に来て頂き、また、お忙しい中、お手紙とDVD、パンフレットを送ってください、どうもありがとうございました。早速、DVDを拝見しました。チェノットウ大司教様の誕生日に、とても意味深いごミサでしたね。仰っていたように、シスター方のコーラス『いのち』は感動的で、私も自然と涙が出てきました。先日の徳島教会でのお話の内容は素晴らしく、考えさせられることも多々ありました。同時に、波乱万丈の人生を歩んでこられた五十嵐さんの、親しみやすい人柄、何よりもイエスに出会った喜び、お恵みを伝えようとするその熱情、意気込みに、大変惹かれるものがありました。イエスの愛に触れた方はホントに凄いですね。周りの社会、組織、環境に関係なく、このイエスの愛につなげようとする…その熱意にあふれ、その力が内面からほとばしり出て、みなぎっている…

そんな雰囲気、五十嵐さんから強く感じ取ることができました。復活したイエスに出会い、毎日の活動（過ちを犯してしまった人たちを見捨てない）の中で、その出会いを日々更新していらっしゃるお姿を感じました。

イエス・キリストとの出会いⅡゆるし、受容、そして神様の愛に触れるⅡ他者（ひと）をその愛につなげていく…という、小さな悟りに似たようなものを得ることができました。私も五十嵐さんに倣い、私とイエス・キリストとの出会いという原点に立ち、その出会いを更新しながら、そのイエスの愛に触れ、今度は私が出会う人々をイエスの愛につなげていく、という熱情に満たされながら、日々を歩んでいけたらと思っています。とても大切なことに気づかせてくださった五十嵐さんに、そして神様に感謝！です。私たちの阿南教会は、主日のミサの人数がイエス様の弟子たちの人数と同じくらいという、とても小さな共同体ですが、どうぞまた機会がありましたら、いつでもお越しください。お待ちしております。五十嵐さんのご家族や活動を心に留め、お祈りさせていただきます。暑さ厳しい折、どうぞご自愛ください。いつくしみ深い愛のもとでのつながりを感じつつ…。

大きなキリストの愛を頂きました。この愛を決して忘れることなく、キリストに熱く燃えて生きます。

二十四日には、渡邊泰男神父と対談させて頂き、「世間の中でキリストに生きるのではなく、キリストの中で世間に派遣される」生き方でありたい、と強く思いました。悲しいことに、ミッシヨンスクールが、世間の中のキリストの学校になっていると感じます。土台に聖書がないと感じます。聖書を読み、聖書の中に生きようとしているならば、キリストの中で、世間に派遣されるキリストの学校になると思います。同じように「キリスト者です」と言っても、土台が世間にあるか、キリストにあるかは、大きな違いです。この人は「キリストを信じている」と言いながら、一体、誰を見ているのか、誰の視線を気にしているのか、と感ずることがあります。

また、色々なところで私の噂を言っている人がいますが、キリストがすべてを知っているの、私はただ、門を叩きながら歩んで行くだけです。キリストの道具として歩みます。

二十三日と二十六日に、N刑務所から社会復帰して来た方を受け入れました。入居する住居がなくて、どうしようかととても悩みましたが、神様が与えてくださり、一人はマザーハウスのアパートに、もう一人は簡易宿泊所に宿泊することになりました。

マザーハウスが賃貸している物件以外の住居に住む場合、東京では、生活保護課との間で三か月間のアセスメント（Ⅱ評価、審査）が必要であり、それをクリアすると、アパー

トへの入居が認められることになっていきます。いきなりアパートに入居することができないのです。ここに大きな問題があると感じます。東京都の場合、無料定額宿泊所というものがあるため、保護申請と同時に住宅の申請ができません。保護と住宅の同時申請が可能な市区町村もあるのに、東京ではできないのです。このようなことが原因となり、保護を拒まれた結果、焦って再犯に走る、という事に繋がっていくのです。一人ひとりの状況を見て対応するべきであると思います。

そして、社会の多くの人たちが現状を知らず、無関心であることが問題だと思っています。知ろうとすることから愛が始まるのではないのでしょうか。一人ひとりが、もし自分がそのような状況になったらどうしよう、自分に今何ができるのだろうか、といったことを深く考え、行動することが大切であると思います。



一兵さん

先日、感動する出来事がありました。年金を受給した受刑者や、領置金がなく、会費納入にも困っている受刑者から、マザーハウスに寄付が届きました。自分たちが今、されていることに対して感謝し、自分たちにできることを実践してくださっている、大きな勇気を頂きました。自分が受けた恩義に対して、姿（行動）で示すことができる人は、相手のことを考えることができる人であり、更生・回復の道を歩んで行けると思います。

「社会復帰したら会費を支払う」と言う人が大勢いますが、そう言われて今まで支払われたことはありません。出所後に、「たよりを送ってください」と知らせてきた住所に一年以上たよりを送り続けても、全く無反応です。このままでは出所者に送るだけで赤字になるので、出所者に関しては、社会一般と同じく、会費を納めた方にのみ送ることにしました。なお、カトリック生活・百万人の福音・幸いな人などに関しては、受刑中の方のみにお送りするものなので、会費を納めても、出所者の方に送ることはできません。

相手のことを考えられなければ、再び刑務所に行くことになります。そういう人たちから、いつも手紙が来ます。「また捕まっちゃいました。支援してください」と言ってくるのです。自分のことだけであり、それ以外の人のことはどうでもいいのだ、と感じます。自分さえ良ければいいのです。

だから、自分に都合の良いことしか手紙に書かず、綺麗な手紙を送ってください。カッコいいことばかり書いても仕方ないのです。正直な自分にこそ大きな意味があり、回復・更生ができると思います。

最後に、受刑者の皆さんに謝罪があります。多忙のため、手紙に対する返事がなかなかできておりません。本当に申し訳ございません。私宛の手紙でも、事務局のスタッフが代筆することが多々あると思いますので、ご了承ください。

また、当法人のスタッフが刑務所にいる、文通ボランティアは皆、事務局スタッフがなりすましている等、でたらめな噂を流している方が色々いるようですが、何を根拠に言っているのか知りませんが、そのようなことはありません。マザーハウスとしっかり関わっていれば、分かるはずです。



華厳さん

社会の声

講演後アンケート

★昨年、えん罪救済センターでボランティアをしている学生向けに行った、理事長の講演会の講演後アンケートをご紹介します（誤字脱字以外、原文ママ。全文掲載（抜粋なし））。

☆

刑務所での生活やその後の生活について、多くの知識を得ることができました。自分は、高校は理系で、ほとんど何も知らない状態で大学に入り、法や政治を学んでいましたが、これを機会に、裁かれた人の事を考えることができました。

自分はマザーハウスのやっている仕事は本来、公共の機関がやるべき事であると思います。それが出来ないというのは、本当に悲しい事です。このように、法を学ぶ上で見

つかった課題と、より深く学び、向き合い、解決する方法を見つけ、それが現実になるように働きかけられるようになっていたいと思います。

☆

私は刑務所を更生施設だと思っていました。しかし、今日の講話をきいて、テレビなどでは放送されていないことがたくさんあることを知りました。賃金のことや人間関係など、実際に経験した方から聴くことができたのでよかったです。

刑務所でのルールと社会でのルールが全然違う、ということにとっても驚きました。出所しても部屋を借りることができなかったり、仕事ができなかったりすることで再び犯罪を起こしてしまう、などの問題を解決するためのマザーハウスの活動は素晴らしいことだと思います。

☆

私は初めて刑務所に入ったことのある方のお話を聞きました。今まで全く知ることのなかった内部のことや、人間関係のことを知ることが出来て大変勉強になりました。お話を聞くまでは、「刑務所Ⅱ更生の手助けをする場所」という固定観念が私の中では出来ていたので、五十嵐さんの「一種の犯罪の養成所」

という言葉聞いて驚きました。しかし、よく考えてみると、刑務官が「法律」で、それに違反すれば罰を受けるので、受刑者は皆、刑務官の指示通りに行動するロボットになる、ということは必然なのだと感じました。

また、犯罪をしてしまった人も「一人の人間」で、他の人達と何ら変わりなく、絶対に自分は犯罪をしないと信じ込んでしまっている人が反対に犯罪者になってしまいうことが多く、という五十嵐さんの言葉が重く心に残っています。

☆

受刑者は、工場内では職員の言い分に従わなければならぬことに驚きました。「目の前の人を愛する難しさ」を刑務所で学んだとおっしゃった五十嵐さん、やはり人は「愛される」「居場所がある」というものを持たせ、持つべきものだと感じました。五十嵐さんのおっしゃったこのことは本当に大切なことであると思うと同時に、社会ももっとそうした人々を受け入れていく体制になるべきだと思います。同時に、社会復帰する人々も「悔い改める」姿勢をもつことが大切であり、行動するべきだと思います。弁護士のある方も考えるべきだと思います。

☆

私自身、刑務所の中のことを全く知らないし、知る機会も無かったけど、今回のお話を聞いて、刑務所の中のことは、百パーセントは分からないけれど、分かうとする努力は大切だと思いました。刑事、検察、裁判官目線のテレビや映画はあるけど、犯罪者の立場のものは少ないし、私たちは犯罪の一部や結果しか知り得ないけど、犯罪のバックグラウンドのようなものをもっと学んでおきたいと思いました。

刑務所は、社会復帰への手段としてはまだまだ足りないものが多いので、マザーハウスのような施設がもっと増えていかないと再犯率は低くならないんじゃないかと思いました。刑務所の中で労働の給料の話聞いて、受刑者の方にも人権とかあるはずなのに、五円〜四十円というのは安すぎるし、そんな値段だから、出所した時に困ってしまっただけで再犯につながるのではないかと思いました。

☆

刑務所は更生の場所ではなく、受刑者同士のカースト制がきっかけでいじめが起きたり、それだけでなく刑務官同士でも派閥があったり、いじめもあるので、そのストレスを受刑者に発散しているという真実を聞いて、かなり驚きました。

殺人などは、親族同士が多いことから、「目の前の人を愛することは難しい」という言葉

には共感しました。被害者遺族のケアがとても大事であり、死刑制度が存在する日本ではそれが遅れているように感じました。

☆

刑務所から出てきた人を生かすために、私たちがすべきことを理解しました。前を向く、前に歩む言葉をかける。しかし社会は非常に厳しい。その中で私に出来ることは、今日のお話を誰かに話して輪を広げることだと思いました。

☆

本日は貴重なお話を聞かせてくださり、有難うございました。私自身、一度刑務所に見学に行ったことがあるのですが、その際に刑務官の方々自身が受刑者の社会復帰を支援していない、期待していないように思えました。それなので、今日のお話はすごく納得がいきました。刑務所内で必要なのは、作業ではなく教育なのかなと思いました。

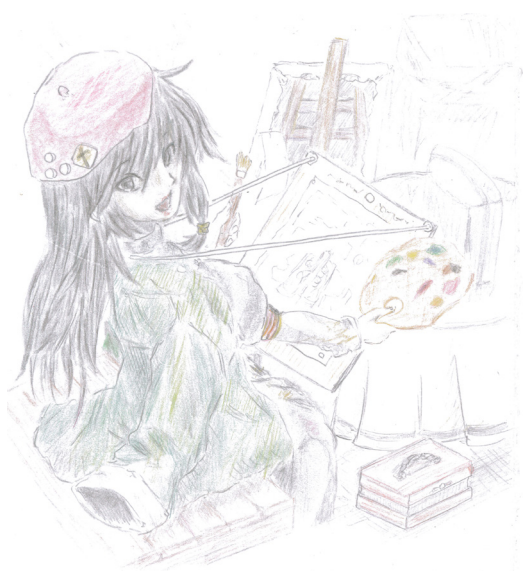
今の日本では、刑務官の数も、刑務官への支援、受刑者への支援、被害者家族の支援なども、十分でないことが多すぎるがよく分かりました。具体的にどうすればいいのかはまだ分かりませんが、少しでもいろんな事が改善してくれることを願います。私たちボランティア活動を頑張ります。

☆

塀の外で、ボランティアやカウンセラーが、心のケアをしよう、手を取り合って助けようという気持ちがあっても、結局塀の中が変わらなければ何の意味もないのではないかと感じました。

更生するためには愛情を知る、人のあたたかさを知ることが必要だという話を聞き、社会に出てから知るのではなく、塀の中で知れたらもっとスムーズに社会復帰できるのではないかと個人的には思いました。もちろん、刑務官の心のケアも同時に必要になっていくと思います。人が傷ついた後では遅いと思います。今できることからどんどん現状を変えていくべきだと思いました。

☆



きりさん

私は今まで、刑務所とは更生する場所だと思っていました。だから、刑務所では常識が通用しないと聞き、とても驚きました。そして、人と人とのつながりはとても大事だと思いました。人がいることの幸せや、孤独のつらさは少し知っているはずなのに、出所の方には偏見の目を向けてはいけなさと改めて思いました。

話を聞いて、コミュニケーションの大切さを実感しました。刑務所の実際について知らなすぎたと思いました。だからもっと公（おやけ）になればいいなと思いました。今日はお話して頂きありがとうございました。

☆

本日の講演で、「刑務所での常識は社会の非常識」「刑務所は更生する場所ではない」という文言にとっても驚きました、自分の中で、社会復帰の観点から見た今日の刑務所の欠点や改善点は何なのか気がなりました。金銭面や心のケアなど、加害者だけでなく、被害者側の精神面復帰のことなども聞けてとても勉強になりました。本日は本当にどうもありがとうございました。

☆

お話を拝聴して、犯罪を生むのは個々人ではなく社会なのだろうと感じました。社会

においてどのように育てられてきたのか、どのように人と関わってきたのか、が人を犯罪者にしてしまうという現実はどうにかして変えられると思います。子どもであれば、親だけでなく、学校の先生、児童相談所などの行政が何とかするべきです。

そんな中で我々ができるのは、受刑者だった方々の意見や考え方を分かち合い、社会に広げていくことだと思います。そのために、この、えん罪救済センターのボランティアを通して活動していきたいと思います。本日はご講話ありがとうございました。

☆

日本の制度的な問題点や、政府、国民の犯罪に対する見解を当事者の視点から具体的に話していただき、大変参考になりました。犯罪や貧困などの問題が社会構造的に生じるという認識が未だ乏しい日本において、どのような対処が適当か、多様な観点で議論する必要性を感じます。

個人的には、現状の社会問題の背景には、社会政策への軽視があるように思っています。社会の受け皿が小さい日本社会保障制度への検討をもっと活発にすべきと感じています。今後の自分にとって大変有意義な講演でした。ありがとうございます。

☆

刑務所は更生する場ではなく、「犯罪者養成の場」「模範囚は一番危ない」「職員が法律」など、自分の今までの考え方が崩れるお話が印象に残りました。刑務所の中にも当たり前のように人間関係があり、そこで人間関係を学んで生き方を見つけていくのかもしれないと思いました。

☆

私は、えん罪に関心がありますが、本当に犯罪をした受刑者には、犯罪の重大性によっては死刑もいとわない考えでした。しかし、それは受刑者側の方の意見に耳を傾けていない考えだと気づかされました。

これからは、被害者だけでなく受刑者の方の立場にも立った考え方をしていかなければいけないと思いました。そして、少しでも刑務所に戻ってしまう方を減らせる社会にしたいです。

☆

本日は、普段の生活で忘れていた大切なことを思い出させてもらった気がしました。心に残る言葉もたくさんありました。私も今まで自分の気持ちを押し付けていたことが多かったと思います。それに気づけて本当によかったと思います。とても勉強になりました。本当にありがとうございます。

☆

刑務所内でのイジメが想像以上にひどそうだなという印象を受けました。他国の刑務所内でのイジメや暴動の話は見聞きしたことがあります。厳しく管理されている日本では有り得ないだろうと思っていました。平尾容疑者（※「刑務所での人間関係が嫌になった」として刑務所から逃走した受刑者）も実は言葉で表せないほどつらい思いをしていたのかもしれません。

確かに現状を改善しなければ再犯率は下がらないかなと思います。社会の一員として、この問題は無視してはいけないと思いました。

☆

マザーハウス・ラブレター・プロジェクトなるものがあるということを初めて知りました。受刑者と文通するのはその家族などだと思っていたのですが、他人と文通するシステムがあるということに驚きました。受刑者の心のケアには良いものであると感じました。五十嵐さんがおっしゃられていた「日本では、被害者遺族に寄り添う、ケアするシステムが遅れている」ということ。私は死刑制度に賛成という立場で、加害者が自分の命をもって責任を取り、罪を償うことしか考えていなかったのですが、カウンセラーやボラン

ティアの方々が被害者遺族に寄り添うことも大事ということに気づかされました。

☆

五十嵐さんの話を聞いて、色々考えさせられることばかりだった。特に死刑、再犯、加害者との向き合い方などは、大学に入ってから一番興味があったテーマなので、学べるところも多かった。全てに共通することだが、気持ちを理解することはできないけど、寄り添うこと、歩むことはできる、という言葉が特に心に残っている。自分がそうだったのだが、加害者のケアを考える時は、「気持ちを理解してあげる」というものが第一だった。でも、五十嵐さんの話の通り、立場や過去が違う自分が、気持ちを完全に理解できるかという無理だと思う。そういう考えも踏まえて、もっと関わり方まで考えられればなと思った。

加害者を取り巻く厳しい環境についてもよく分かった。刑務所の厳しい現実が最近のニュースでもあっただけに、考えさせられるものだった。再犯率の高さも、人間関係のいじめや、刑務官の派閥からくるストレスのほけ口など、環境の悪さからくるものも大きいのではないかと改めて考えた。被害者、加害者両方にもう少し寄り添うシステムに改善しないといけないし、自分たち学生も現状の理解を頑張らなければならぬと思った。

☆

刑務所を出た方の支援、被害者家族の支援、いろんな支援が日本の制度には足りないと思いました。また、マザーハウスの文通のお手伝いをしたいです。

「人は人によって変わることが出来る」。本当にそうだと思います。人は人の助けがないと生きていけないけど、傷つけてしまうこともある。人間は本当に難しいものだけど、本当に素敵だと心から思います。より良い社会をつくっていくのは若者の私たちだから、もっとこういう活動に興味をもって取り組んでいきたいです。

☆

たくさんの貴重なお話をして頂き、自分としても貴重な経験ができたと思います。ありがとうございました。今回の五十嵐さんのお話を聞いて、刑務所内の現状、あるいは実状について、詳しく知ることができました。更に興味をもっと引き出すことができました。

マザーハウスは出所された方々の援助をされているということ、たくさんの、そして多くの壁があると思いますが、その中で活動が続けられていることは凄く、エネルギーが要ることだと思います。その中で見たら聞いたりすることで終わらないように、見続けられるようにいたいと思うので、これからも活

動を頑張って続けて頂きたいと思いました。僕自身、もし身近なところに出所された方がいたとしても、敬遠した態度を取ってしまったようにしていきたいと思います。

☆

初めて刑務所の実際の話聞かせていただいて、そこまでひどいとは思いませんでした。私自身、罪を犯した人＝悪い人だと強く思っていて、その人のバックグラウンドなど考えたことも無かった自分がまだまだやなと思いました。実際の人の話を聞くことによって、自分の力では知ることのできない貴重なことを知り、学べたことに感謝したいです。私自身、六年間、キリスト教の学校に通っていたので、隣人愛についてもう一度考え直す機会になりました。

☆



NARITAさん

今回はお忙しい中、講話して頂き、有難うございました。自分の身の回りにも、非行で捕まったりした子がおり、その子も父親がいなかったり、親が放任主義だったり、愛情を知らない子だったような気がします。目の前の人を愛する、関わるということの難しさは、とても大きな課題であると感じました。

刑務所と社会の常識がズレている、刑務所では常識を教わらない、という事実は改善されるべきであり、自分たちが行動し、変えていかなくてはいけないと思いました。助けを求められたときに助けられる人に、しかし、ただ軽い気持ちで手を差し伸べるのではなく、もっと現実を知り、本当に助けられる人になれるよう、努力したいと思います。本日は本当にありがとうございました。

☆

話を聞かせてもらう前から、刑務所の実態がひどいというのは何となく知っていたが、自分が思っていたよりもひどかったので驚きました。途中、死刑は廃止すべきだという話がありました。自分は死刑の有無よりも、やり方を変えるべきであると考えます。

あと、自分が感じたのは、加害者にもそれに至る背景があることを、もっとよく考える事が大事なのではないかと思いました。裁判官は法と良心に基づいて判決を下すものであり、僕はこの良心こそが最も大切なのではない

いかと思いました。将来、本当に弁護士になれるなら、被害者の気持ちはもちろんですが、加害者の気持ちも考えるべきだと感じました。

☆

これまで、えん罪で刑務所に入っていた受刑者の話は聞いたことがあったが、実際に犯罪をした方の話を聞くのは初めてで、とても刺激的だった。講話の中であった、「刑務所は受刑者を社会復帰させるところではない」という言葉に特に強い衝撃を受けた。言われてみれば、刑務所は社会とは全く異なる世界である。それは、受刑者が特別権力関係（※特別の法律上の原因等）に基づき、一定の範囲で、一方が他方（相手方）を包括的に支配し、相手方がこれに服従しなければならないことを内容とする関係。公務員の勤務関係、受刑者の収監関係など）にあるとされていることからも見えてくる。

今の刑務所は、応援という側面を無視しすぎていないか。そういうことが見えた講話だった。

☆

とても貴重なお話でした。刑務所の現状や出所者の更生、犯罪の原因など、普段聞けないようなお話でした。また、死刑の賛成、反

対や、更生への可能性などについて、改めて考える良い機会となりました。様々なボランティアや活動を行う中で、関係者だけでなく、被害者や加害者の方の声を聞く、ということも大切にしたいと思いました。今後のこのような講話があれば参加したいです。

☆

普段はあまり聞けないような刑務所の中の話が聞けてとても勉強になりました。

マザーハウスへの要望というよりも、私個人の意見なのですが、私は子供の頃、学校の物を壊してしまったことがあります。その時は色々な人に助けってもらって何とかりましたが、自分がいつか犯罪をしてしまいそうで怖いです。私は自分が犯罪をしてしまった人と変わりない、同じ人間だと思っています。そこで、私のような刑法上の犯罪をしてしまう前の人間も、同じようにサポートしてくれる場所があったらいいのと思いました。本日はありがとうございました。

☆

お話を聞かせて頂いて、今までの自分の受刑者の方に対する考え方や、刑務所内での実状を知ることができました。受刑者だから分かること、伝えてもらえること、知れることがあり、とても貴重な体験ができました。

ニュースやメディアなどで放送される事件を見て、その情報だけしか分からない私達には、受刑者の内でのいじめが発生していること、受刑者の本当の気持ち、その犯行に至った経緯はなかなか深く知ることはできません。また、メディアの偏った過剰な報道で、私達の考えるべき本当のことが考えられない状況にもなり得ます。そのような現代で、この今回の五十嵐さんの話を聞いたことは、自分にとって、考え方や受け止め方に改めて向き合えた機会になりました。良い経験ができて、良かったです。

☆

刑務所での話とか聞く機会なんてないと思うから、聞けてすごく貴重な体験をできたなと思います。

私は今、実際、法律のことも全然知らないし、受刑者の方のことも知らないけど、刑務所から出てきた人たちの生活のために、私たち一般人の税金が使われているのはあまりいい気がしないです。出てきてからの生活が心配なら、始めから犯罪なんかしなければいいのじゃないですか。これから、このボランティアでも授業の中でも、私の考えが変わったりするかな？ってちょっと興味が湧きました。

☆

私は、幼稚園・高校がキリスト教の学校だったので、今回五十嵐さんの話で出てきた聖書の言葉やマザー・テレサの言葉を知っていました。目の前の人を愛するというのは、とても難しいことだと私は感じていました。宗教の授業があつて、「あなたの隣人を愛させていますか」という質問に、私はとても恥ずかしいことですが、長年何も答えられませんでした。でも、今回お話をうかがって、自分の愚かさを感じました。自分がゆるすことをしなければ、この社会は変わらないのだとすごく反省しました。

将来、司法の立場に立った時、どうやらえん罪を発生させないのかと考えていましたが、私自身が基礎となる人間、本来の愛というの見失っていたかもしれません。本日は色々と学ばせていただき、本当にありがとうございました。

☆

本日はご講話ありがとうございました。刑務所内でのイジメがあることに驚きました。自分の犯した罪をさらされるのは、人権も何もないので、刑務官を含め、規律を守るべきだと思います。五十嵐さんが何度も言われていた、「目の前の人を愛すること」ができれば、殺人事件は起こらないだろうし、犯罪も起こらないと思います。本当に相手のことを思いやり、気遣うというのは難しいことだと思います。

ます。自分も含め、相手を思いやり、生かす言葉をかけることのできる人でありたいと強く思いました。

☆

本当に貴重なお話をありがとうございました。大学の講義室のみでは学ぶことのできない、刑務所の中の生の実情を聞くことができ、非常に興味深く感じました。特に「社会の常識は刑務所の非常識、刑務所の常識は社会の非常識」という言葉は胸に刺さりました。受刑者の社会復帰のハードルは高く、また多いのだと感じました。本日拝聴したことを私たちの今後の活動に少しでも活かしたいと思っています。

☆

今回、五十嵐さんの話を聞いて、犯罪者にも人権があるのだということを再確認できたような気がします。やはり、死刑に処してしまふと、被害者側の気持ちは晴れるかもしれないが、残された犯罪者の家族はどうなるのか。また、家族を殺された遺族のケアをどうしていくのか。さまざまな課題があるんだなと思いました。

当事者にならないと、それぞれの気持ちは分からないし、分かってしなくちゃいけないわけではない。ただ、それぞれの立場の人

の気持ち、心に寄り添うことが大事になってくるんだなと感じました。ぜひ私もマザーハウスのラブレター・プロジェクトに参加し、実際の犯罪者の心の声を聞きたいと思いました。

☆

あまり元受刑者の方の話を聞く機会がなかったので、貴重な体験をさせて頂きました。大学での講義で、矯正保護過程について受講しているのですが、そこでは聞けない話を話されていたので、ためになりました。キリスト教が今回挙げられていましたが、宗教というものが、受刑者の社会復帰に一役買っている事を改めて実感することができました。

少年の死刑判決の際に少し触れられていましたが、人が非行や犯罪をする要因として大きいのが虐待です。また、とある弁護士の方が「愛情を受けた人はヤクザにならない」と言っていたように、十分な愛情を受けた人は、犯罪に走りにくいと考えられます。しかしながら、それらの対策は、罪を犯してから判明するものであり、事前の対策は不可能です。そういった事を考えると、犯罪者の矯正、更生というよりは、いかに幼少期の虐待を防ぎ、罪を犯す者を減らす事が大切だと感じました。

(おわり)

育児日記 理事長の奥さんによる

今年の夏休みは、遊園地に動物園、プール、花火、川でバーベキューをして、夏を満喫しました。特にA君は、遊園地、プールが楽しかったらしく、「ここに住みたい♪」と言っていました。

ある夜、寝かしつける時に、「Aくん、めをあげながらゆめがみられるの、なんてかなくておもうんだけど、めのまえにしゃしん20まいぐらいがあつて、そのなかからいちまいをえらぶと、パパのけっこんしきや、おなかのなかにいるときがみれるの、でもすぐにきえちゃうんだ、こわいのもいっぱいみえる」と言っていました。天使さん、神様が守ってくれるよう一緒に祈りをしたら、「てんしがいっぱいになった」と、安心して眠りについていました。結婚式の時は、A君はお腹の中にいたのに……。けれど、純粹無垢なので、「何か」が見えても不思議ではないなと思います。

また、人のことを何故か「にんげん」と呼びます。新聞配達の人を見かけると、「あのにんげん、にもつおいたらこっちにくるよ」と言っていて、可笑しくて笑ってしまいます。

妹のKちゃんは、拙い言葉がとても可愛いです。信号を渡る時に、「ママー きいろはきゆうりだよね」（黄色は注意）と言っています。現在、トイレトレーニング中なのですが、一進一退なので、トイレで用を足せたら、大好きなアンパンマンシールを貼れるようにしたら、漏らさずに一人で進んでトイレに行くようになりました。アンパンマンの効果はすごいです！

次女のRちゃんは一歳半になり、少し言葉が出てくるようになりました。かまってほしい時や、じやれている時に、私の腕を力の限りつねったり噛んだりしてきます。そして、「いたいー?」と可愛く聞いてくるのですが、とても痛くて痣ができることがあります（泣）。つねったりしている時でさえ愛しいので、一歳半健診で先生に「何か心配なことはないですか?」と言われたときは、「可愛すぎて心配です」と言いたいくらいでした（笑）。



ささきみつお コーナー

三日間だけでも目が見えたら

* ブログ : <http://ixsasaki.ti-da.net/>

一・三日間、目が見えたら

「目が見えない、耳が聞こえない、口が話せない」。生涯にわたって三重苦を負いつつ生き抜いたヘレン・ケラー。

『三日間だけでも目が見えたら』というエッセイには、要約すると、次のように彼女の心からの願いが書かれている。

第一日目。まず初めに、子供の頃から教えていただき、ずっと家に閉じこもっていた私に外の世界を開いてくださった最愛のアン・サリバン先生とお会いしたい。いままで指先だけで触っていた彼女のいっくしみ深いお顔と、麗しいお姿を何時間もじっと眺めながら、それを心の奥深くに刻み込みます。

次に、親切にしてくれた友人たちにお目に

かかります。無邪気であどけない赤ちゃんの顔を見たり、家に行っているいろいろな本や敷物や飾り等を見ます。そして、森に散歩に出かけ、自然の美しさに圧倒されて我を忘れまします。夕方にはまぶしく輝く夕焼けを見て祈ります。

第二日目。夜明けとともに起きて、太陽の輝きが眠っている大地を目覚めさせる壮大なパノラマを見て驚嘆します。

午前は、ニューヨーク自然歴史博物館を見学し、天地創造から現在に至るまでの地球の歴史を一望します。午後は、メトロポリタン美術館に行き、世界史の中の偉大な芸術家の絵画や彫刻の数々をしみじみと見て満喫します。その後は、劇場か映画館に行きます。そこで素晴らしい演劇かドラマを観ます。夜は、宝石のように散りばめられた広大な夜空の星を眺めます。

第三日目。また新しい日の出を見ます。静かな郊外にある我が家を車で出て、近くの木や花に囲まれた家々の芝生に戯れる子供たちを見ながら、さまざまな活動や仕事で活気あふれる市街に向かいます。そこで人々の喜び、笑い、決断、苦悩といった表情を見て共感します。婦人たちのカラフルなドレスや服装を時間が過ぎるのも忘れて眺めます。ショーウィンドーに並べられている綺麗な品物を見て歩くのに夢中になります。

最後の晩も、もう一度劇場に行き、面白い喜劇を見て楽しみます。家に戻り、目を閉じなければならぬ最後の瞬間に、私は三日間だけでも目が見えるようにしてくださった神様に感謝の祈りをささげ、永遠に暗い世界へ帰っていきます。

ヘレン・ケラーのこの切なる願いは叶えられなかった。けれども、肉の目が見えなくても、肉の耳が聞こえなくても、肉の口が話せなくても、彼女は、霊の目で見、霊の耳で聞き、霊の口で話すことができた。いつも天国への希望に溢れていた。

二・三日間、目が不自由になったら

ある時、自転車に乗っていたら、急に強い風が吹いてきて、両眼に埃がたくさん入ってしまった。あまりの痛さに目を開けることもできず、路上に自転車を置いてタクシーで家に帰った。

その日は涙が止まらず寝込んでしまった。このまま目が開かなくなったらどうしようかと心配になった。

知り合いの医療関係者に電話で聞いたたら、埃が入ったまま目をこすったりして角膜が損傷し、それが原因で炎症しているのだろうとのことだった。

次の日に起きたら、痛みは少し和らいだが、大量の目やにて瞼がくっついてしまい、開けることができない。ようやく目やにを取って目が開いたら、世界が真っ白になっている。外出しても、交差点の信号の色も区別がつかない。まったくの白銀の世界である。事務所に行き、書類を見ても、パソコンを見ても、白濁してはつきり読めない。

このまま目が白濁して治らなかつたらどうしようかと恐れが生じた。

三日目になっても目は白濁したままだった。裁判で法廷に出ても、裁判官の顔がはっきり見えない。書類もよく読めない。これでは弁護士業務ができない。それでも私は医者に行かない主義なので、癒されるように神に祈り続けた。

おかげで、四日目から正常に戻り始めたが、完治するまでに二週間かかった。目が普通に見えることがいかに大きな恵みかを悟った。

三. 目が見えるようになったら

マイクロソフト社の創業者として成功し、世界一の大富豪になったビル・ゲイツ。

ある時、大きな集会で彼が自分の成功の証をスピーチした後で、参加者の一人がこう質問した。「ビル・ゲイツさん、もし突然あな

まったとします。でも、もしあなたの全財産を貧しい人たちに寄付すれば再び目が見えるようになると思います。そうだとしたら、あなたはもつと成功し続けるために、盲目のまま一生を過ごす方を選びますか？それとも、全財産を寄付しても目が見えるようになる方を選びますか？」。

あまりにも唐突な質問に、固唾をのんで見守る会衆に向かい、ビル・ゲイツはきっぱりと、「私は全財産を寄付しても目が見えるようになる方を選びます！」と答えた。満場の拍手喝さいが止まらなかった。自分が懸命に働いて築いた「八兆円という財産」も、神がくださった「目が見えるという価値」にははるかに及ばないと判断したのである。

その後、彼はビジネスの世界から撤退し、全財産を公益財団に寄付して、世界のエイズ撲滅等の社会福祉事業を行っている。



きりさん「A & R」

ブログ：<https://ameblo.jp/npo-motherhouse/>

理事長の奥さんによる Lovely DAYS

今年は、マザーハウスのみんな総勢二十人くらいで、中津川にバーベキューをしに行きました。皆さん、前日に仕込みを手伝ってくれて、また、当日は率先してバーベキューをしてくださいました。川は氷水のように冷たく、流れも速かったのですが、当事者のみんなは物怖じしないで、まさかの綺麗なフォームで飛び込みをしたりして楽しんでいます。

子供達を守ってくれたり、一人溺れかけた女性を助けたりと、みんなの善良な心が見えて、有意義な時間を過ごせました。とても楽しかったです。来年参加する人、是非お待ちしております♪



塀の中のたより

―受刑者からのお手紙―

今できることを、おろそかにしない

A刑 Dさん

私がここに移送されて一年と少し経ちますが、その半分以上を農場の寮という開放的な処遇で生活させて頂きました。正直、農場への転業が決まったときは、嫌な意味での不安が大きかったです。

一番の不安の原因は、二十数名が一つ屋根の下で生活する雑居生活です。人と接するのが嫌い、というわけではありません。ですが、刑務所で一番難しいことは対人関係だと思っています。海千山千（※長い経験を積み、世の中の中も裏も表も知り尽くして悪賢いこと。したたか）の人間ばかりが集まっているのですから、尚更です。

かてて加えて（※そのうえ、おまけに、という意味）、刑務所には、社会では当たり前な思いやり、優しさが規律違反にも繋がるし、仲良くなり過ぎるのも、距離を取り過ぎるのも、良い結果にならないことが多いように思います。我慢ばかりではストレスになりますし、かといって我慢がなければ、務まりません。現在まで、懲罰もなく来れた、ということが、対人関係が上手くできた、という結果だとは自分では思えません。

社会に出て福祉の道を目指している私は、人と人との繋がりが一番大切だと思っています。今回の刑務所生活では、対人関係も課題として挙げましたが、なかなか思うようにはいきません。

ナポレオンの有名な言葉に、「お前が未来に出会う災いは、お前がおろそかにしたある時間（過去）の報いだ」というものがありますが、「今できることは、しっかりとやっておかないと後悔する。後悔したくなければ、今をおろそかにするな」ということなのだと思います。ここでの残りの生活、そして出てからの生活でも、もっと自分に厳しく生きていかなくては、また同じことの繰り返しになってしまうと、今更ながら反省しています。

話は変わりますが、相変わらず牛舎での仕事を楽しくやらせてもらっています。ここから出荷される牛たちは「監獄牛」というブラ

ンドで、高く評価されています。先日出荷された牛も、最上級のA5ランクの評価を頂きました。出荷されるときは本当に寂しいですが、A5ランクをもらえるのが、せめてもの慰めです。この牛たちとあとどれだけ一緒にいられるかわかりませんが、ここでの生活を忘れないで、今後の生活の肥やしにします。

「人に勝つより、自分に勝つ」というように、まず自分自身との約束を破らないように、しっかりと信念を持って生きていきます。なりたい自分になれるように、理想の人生を歩んでいけるように、他人が笑おうが笑うまいが、自分の歌を唄っていきけるような一生を送りたいです。



河童さん「カラニジキジ」

神様の働き

M 刑 N さん

昨年末、それまで居りました工場から別の工場に移り、居室も、個室から共同室に変わりました。長く夜間個室で生活していたため、共同室での生活になかなかついていけず、また、夜間頻尿がひどく、同室の人に大変迷惑をかけました。罵声を浴びせられることも幾度となくありました。

正直、ムッ！とすることもありましたが、非は私にあることだし、そういう言動も、神様が私のためにその人の口を使って言っていることと思いい、「すみません」「有難うございます」「注意します」と、謝意と感謝を伝えてきました。また、聖書に従って、主に感謝の祈りをすると同時に、罵声を浴びせる人のためにも毎日祈りました。

私が移った工場には、二十名ほどの人員が居りますが、夜間個室は六部屋しか割り当てられていません。残りの人のほとんどが夜間個室を希望しており、私も工場に移ってきて直ぐに希望を出したものの、順番が回ってくるよりも、出所になってしまいう方が先だと諦めていました。

しかし、やはり毎日の祈りの中で、「一日でも早く、夜間個室に移れますように」と祈っ

ていました。そのような日々を送る中、驚くべきことが起きました。

今、刑務所も少子化の影響なのか、ピーク時に比し、被収容者の数が大幅に減少しています。ここでも、共同室に一人でいたり、三人でいたり、という状況です。個室棟も空室が多いということで、寄せたりして整理したところ、夜間個室の割り当てが増えることになりました。ただし、今回整理した部屋は懲罰などで使っていた部屋で、しかもこの数年のうちに、建替えのために取り壊されることが決まっていることから、テレビ視聴の配線が無く、新たに配線工事もしないということで、テレビの視聴ができません。それでも良ければ、ということでは希望を募っていました。テレビが無いのでは、あまり希望する者はいないだろう、と予想したのですが、それに反して、我が工場からは七人も希望者が出ました。もちろん私も希望しましたが、希望者が多いので、諦めていました。ところが、祈りが天に届いて、希望者全員が、夜間個室に入る事ができました。もちろん、感謝の祈りを捧げました。テレビが見られないことで少々の心配はあったのですが、読書や学習に集中できるし、やはり神様は最善を用意してくださっていたのです。

さらに、前述致しました、私に毎日のように罵声を浴びせていた人にも、大きな変化が

起きました。神様が私を導くために、この人の口を使って言わせてくださっているのだ、と思うようにしていても、私も弱く、信仰の浅い人間ですので、「この人は、私のことが心の底から嫌いなのに嫌いじゃない！」と思っていました。

ところが、五月の連休ごろから、彼の態度が少しずつ変わってきたのです。部屋でも一番、会話を交わすようになり、テレビ視聴の無い夜間個室の話が告知された時も、私に「どうするの?」と尋ねてきて、「俺もどうしようかな、どうしたら良いと思う?」と相談されたりするようになりました。最終的に、私が転室することが決まったときには、「本当に独居へ行っちゃうの?嫌になったら直ぐ戻ってきなよ!」と言ってくれるようになったのです。今では、工場内でも最も仲良くさせてもらっている人の一人です。

さて、六月に入って、運転免許の更新手続きがありました。今年、六十代半ばになる私は、昨今の高齢ドライバー問題を鑑みて、更新をどうするか悩んでいましたが、迷ったまま、更新手続きの日を迎えました。私の免許は大型自動車なので、適性検査に深視力（奥行き）検査があります。私はこの検査が若い頃から苦手で、寛容な検査官のおかげで何回か検査をやり直して、やっと合格するのが常でした。年を重ねた今は視力も落ち、「メガネ使用」となってからは尚更、合格しづらく

なっています。「まあ、通らなければ、それも主の御心だから、普通車と大型自動二輪だけでいいや」と、開き直りともいえる気持ちで検査に臨みました。

私は先頭で検査を受けることになり、最初に通常の視力検査を行いました。ここで、びっくりすることに、メガネを使用しなくても、はつきり見えたのです。次は深視力です。三本の棒が前後に動き、三本が横一線に並んだところで、手元のスイッチを押して機械を止めます。合格のラインが決まっています、きちんと三本並んだ状態から前後どのくらい「ずれ」たかを判断されます。今回は、メガネを使用していないのに、一回でクリア！神様が、「まだまだ運転しても大丈夫」と言ってくださっているように思いました。「メガネ使用」の条件が取れたのは何十年ぶりのことか、忘れてしまうほど昔です。

平和について話し合ったひと時

M 刑 S さん

「焼き場に立つ少年」のカードを有難うございました。同じ部屋の人たちが皆、見せてほしいと言ってきた、少年の話になりました。「背負っているのは弟ではなくて妹だ」と言う人が居ましたが、妹であろうと弟であろう

と、この悲惨な状況は同じであり、自然と涙が流れてきます。ちょうど、テレビでこの少年の写真が写ったので、なんてタイムリーなんだ？！と驚いたのです。主が働きかけてくださっているのを感じました。

部屋の中では、平和について話し合うという、社会の人たちが「懲役がそんなまともな会話をするの？」と驚くであろうひと時を得ました。

「神がいるのなら、何でこんなことが起こるのか？」という声もありますが、イエスを信じるのができた私には、こうした辛い場面であっても、神に栄光を帰すことであり、いつも主が正しい道へ導いてくださっているのだと言えます。でも、自分では言えても、信じていない人には、上手く説明できませんでした。

しかし、「神は真実な方ですから、あなたがたを耐えられないほどの試練に遭わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道を備えてくださいます（第一コリント十章十三節）」と、みことばにありますので、今苦しんでいる全ての人の心に光が灯ることを祈ります。

懲役生活はつまらぬトラブルがとても多いです。そうした日常に負けず、イエスに倣う者として、主の愛を生きていきたいと思います。

刑務所の物価事情

きりさん

先日、また日用品の値上げが行われました。上がることはあっても、下がることはまずありません。社会でも、様々な理由で値上げが報じられていて、半年後には消費税の増税もあります。

報奨金（※刑務作業で得られる賃金のこと）頼みの生活では厳しい状況です。ここでは前月の報奨金計算高の二分の一が使えるのですが、上限は三千円までとなっていて、つまり六千円以上稼いでいても、三千円の枠内での購入となります。なので、物価の上昇は、購入のやりくりに直接響いてきます。値上げ・増税によって、これまで買っていた本が買えなくなったり、買っていた組合せが維持できなくなったり、というのが人によって問題として発生してきます。勉学用の本などは高価であり、困ったことになりそうです。

物価の問題に限らず、刑務所全体の予算も決して多くはない中で、色々と「こうした方が良い、もったいない」と思うところがあります。例えば、告知文の一部の訂正など、手書きや口頭で直せばいいところをプリントし直すなど、もったいないと思えることをやめずに、「水や電気の節約を」と言うのは、ど

こおかしいように感じてしまいます。塵も積もれば：と言いますし：。

また、製品づくりの道具を毎回廃棄して作り直すというようなことを聞きました。次の注文まで保管してまた使えば良いのに、使わない時期は必要ない物で不正な物品になりかねないから、というのが理由だそうです。

せめてできること

K刑 Dさん

たより四月号の理事長挨拶に、「送られてきた冊子などを読まずに捨てる人がいる」とありました。

それらが手元に届くまでには、多くの人が汗をかき、「幸せになつてほしい！」という想いが込められて、私たちのもとに届くのです。同時に、お金と時間も込められて届くのです。

無理をして読む必要はなくても、手紙を買い、ただ一行二行、「読みませんので送らないでください」と書いて送るくらいのことをして、それでも良いのではないのでしょうか。

私事ですが、無理したら長続きしないので、一日一ページを読むようにしています。一年

だと三百六十五ページ読めて、しっかり集中して読めます。そこには「学び・感動・喜び」があります。捨てるなんて、もったいなくてできません。

私心が物事を複雑にする

D刑 Yさん

私たちは普段、自分が「生きている」ことをそれほど意識しませんが、瞑想をして、自分の息に集中する時、ふと息の神秘性に驚かされる瞬間があります。自分が息によって生かされている、生き生きしている、といった言葉の意味が、何となく理解できたような気がするのです。

それからというものの、落ち着かない時や、心が暗くなりそうな時は、意識を集中して呼吸を整え、汚れた自分の息をスーッと吐いていくと、何となく落ち着くように感じます。このように考えてみると、自分（人間）はなんと不思議な存在なのかと感じます。この胸の中に一つの神秘的なものが宿っているだけでなく、「私」は体と繋がっていることに気が付かれます。

私見ですが、物事や人生を複雑にしているのは、人間の私心だと思います。あらゆる問

題で苦しむのは、結局、自分の心が内側にはかり向いていることに原因があるのではないのでしょうか。そういう私自身も、キリストの愛を実践したつもりが、よくよく考えてみたら、利己心が動機になっていことに気付き、自己嫌悪に苛まれる、といったことが往々にしてあります。

自分のことばかり考えていたら、足りないところや満たされない思い、不平不満や葛藤などの問題が際限なく出てくると思います。人間は、感謝の気持ちを忘れると傲慢になります。そして、この傲慢ほど私たちを神様から遠ざけるものはありません。たった一つの傲慢な思いは、神様から与えて頂いた全ての賜物、そして徳に進歩するために払った一切の努力を無に帰してしまいます。

最後に、たより四月号の社会の声を読み、出所後の生活について色々と考えさせられました。これまでは、組織が全てにおいて自由のないように準備してくれていたもので、とにかく出ることだけを考えていれば良かったのですが、過去と決別した今回は、厳しい現実が待っていることを覚悟しなければなりません。



元・貴族は餃子好き♡さん

沈黙は金

Y 刑 T さん

「沈黙は金、雄弁は銀、口は災いの元」と言いますが、この言葉は、いつでも役立ち、自分を守るために必要になります。口が軽い人と口が堅い人がいたとして、どちらが良いかは一目瞭然です。

しかし、周りの同囚を見ると、軽口によって、自分から揉め事や火種を作っている人が後を絶ちません。

刑務所の訓辞（※指示のようなもの）には、「受刑者には上下関係はない。受刑歴が長いとか役職に就いているとか、そういうのは一切関係ない。受刑者は皆、横並びだ」とあります。

しかし、このことを正しく理解していない同囚が散見されます。刑務所経験が長い、役職がある、という点に自信を持って自己顕示の材料に使う人もいれば、正反対に、入所間もない人で、「上下関係はないから」と言っている人の態度が悪いとか、自分に難しい品物しか配分しないだとか、一方的に文句ばかり言う人もいます。これらに共通することは、自分の感情を、自分の中に留まらせずに他人に出すことによって、一時的にストレス発散になったり気分が良くなったりするかもしれない

ませんが、それは錯覚に過ぎず、そのような態度を続ければ、いつか必ず揉め事に発展する、ということです。

外の世界でも所内でも同じで、自分の感情や秘密は軽い気持ちで口外しないことが大切だと思います。

更生に必要なこと

T 拘 K さん

先日は、お忙しい中、面会に来て頂き、有難うございました。短い時間ではありましたが、私にとってプラスになるようなことばかりでした。

正直に申し上げると、五十嵐さんのお話を聞くまでは、「マザーハウスは何を支援してくれるのだろう。身元引受人等が誰もいなかったけど、これで大丈夫かな。回復プログラムとか、色々面倒くさいのは適当にやれば良いや。外に出てから自立するには、とにかく仕事を早く見つければ何とかなるだろう」などと、今後の自分自身のことなのに甘く考えて、私のために動いてくれている人がいるのに自分のことばかりで、自己中心的になっていました。こんな考えでは、五十嵐さんた

ちに支援してもらうどころか、更生なんてできないままだったと思います。

ですが、五十嵐さんとの面会でお話を聞いてから、これらの甘い考え、自己中心的な考えではいけないのだと痛感し、まだ具体的にどうするかは分からないことばかりですが、今のままではいけないと思い、気持ちを改めることができました。本当に有難うございます。

五十嵐さんのお話の中で、いくつか印象に残っていることがあります。何を支援してくれるのか：この考えではダメなこと。何を、と甘える考えではなく、自分の更生について、自分で考え、自分一人ではできないことに対して助けを求める：こういう考えでないといけないこと。仕事さえどうにかすれば、何とかなる、更生できる：この考えは間違っている、そうではなく、まずは自分の土台をしっかりする、相談できる人や自分の居場所を見つける、困った時に「助けて」と言える人がいる、それらの方が大切だということ。

これらの話が私の中で印象に残り、考えを変えることができました。最初の方にも書いたように、五十嵐さんのお話を聞くまでは、何を支援してくれるのだろうかと思っていて、その質問もしようと思っていました。ですが、五十嵐さんの話を聞き、正直、「質問する前に話してくれて良かった」などと思ったりもしましたが、上手く言えませんが、私

の心の内を見透かされているような、「マザーハウスを頼れば何とかかなる」と思っているでしょう。自分のことしか考えていないんですね」と言われているような、そんな感じがして、刑事さんや弁護士さんたちに言われたものより重みのある、心を動かされるような、何とも言えない気持ちになりました。

とにかく、今のままではダメだ、と思いました。

なので、今ではもう一度最初から考え直し、回復プログラムも、「何度もやっていくうちに、自分を見つめ直すことができる」と言われたので、適当にならず、毎日書けなくとも、読んで考えるようにしています。たよりも、自分だけじゃないんだ、みんな更生しようと頑張っているんだと、元気がもらえるので、毎日目を通していきます。

そして、五十嵐さんはこう言っていました。「更生しようと頑張るなら、マザーハウスは支援しますが、うちは厳しいよ」と。それを聞いて、また、それまでの話を聞いて、まず私は弁護士さんに感謝しました。弁護士さんが動いてくれないければ、五十嵐さんとは出会っていないからです。

私は少年院にも行っていて、何度も失敗してきました。更生するために、今度こそ自立するために、甘い自分を変えるために、厳しくサポートしてくれるマザーハウスに助けて

ほしい、と思いました。自分のように、罪を犯してしまったけれども、今は更生しようとして頑張っている人たち、実際に社会復帰してサポートしてくれている人たちの元で、私もその中に入り、更生・自立していきたいです。何から何まで支援してもらって、教えてもらうのではなく、自分で考えて行動し、その中で助けを求めて支え合っていくことが大切なのだと分かりました。

熱中症対策の改善

〇刑 Nさん

七月は作業安全月間で、所内は、全工場をあげて、毎日の訓辞やVTR、レポートなど、様々な作業意識を高める活動に取り組んでいます。私は社会で、工場等で働いた経験がないので、詳しく知らないのですが、作業安全月間は社会でも同じようにやっているのではないのでしょうか。私も先日、「不安全作業ヒヤリ・ハット・レポート」と「創意工夫提案用紙」を記載し、それぞれ提出致しました。提出は任意ですが、安全作業を心掛け、良い仕事をしたというも思っているもので、出すことに致しました。私のいる金属工場は、気を抜くと事故に繋がる機械や器具がたくさんあるので、気を付けて作業したいと思います。

生活面では、熱中症対策として、様々な措置が講じられています。まず、平日の夕食後と、作業のない日の昼食後、夕食後に拭身が許可になりました。また、毎日夜八時半からもう一度拭身することができます。拭身は、洗面器に水を張って、タオルで身体を拭く行為です。暑いときは本当に有難いです。汗でベタベタした身体を拭くと、さっぱりして気持ちいいです。また、作業日の昼食後には、塩分補給のための塩飴が配られます。それから、午後に、コップ一杯の経口補水液が出ます。これらの対策は昨年もありましたが、引き続き今年も実施されています。今年は、これらの対策に、更に二点、追加されました。休憩時間に水のシャワーを浴びて良いのです。また、お昼休みに、洗面器一杯の水を頭から被って良いのです。これは非常に有難いですし、本当に官に感謝です。他の施設の状況はどうなのでしょう。ちなみに、お昼の頭の水被りは、作業が無い日も居室で行うことができます。

自分自身でも、しっかり食べ、ぐっすり休み、水分をこまめに摂って、元気に頑張りたいです。



華厳さん

上手くいっているときも、 困難な人のために祈る

(同じく、) O 刑 N さん

イエスは十字架の上で、「父よ、彼らをおゆるしく下さい。彼らは自分らが何をしているのか、わからないのです」と仰せになりました。実生活の中では、腹の立つことが色々起こります。そんなとき、聖書の中でイエスが説いた「ゆるし」について考えると、改めて本当に、イエスはすごいお方だと思えます。ちょうど、カトリック生活七月号で、そのような記事がありました。「教皇フランシスコの言葉 V o l . 7 3」で、「神から私たちもゆるされたように人をゆるします。それは想像を超えた貴重な恵みです」とありました。私はいつも、自分はゆるされたいと思っているくせに、人を赦すときには苦勞する、ということがよくあります。これではないですね。

私が他の人をゆるさないなら、神も私をゆるさないでしょう。自分はゆるされたいのに、他の人をゆるさないのは、傲慢です。傲慢は滅びの道です。神は、滅ぼそうとするものを先ず傲慢にする、と言いますから。自分が困難なときは主に祈り、自分が上手くいっているときも、驕る(おごる)ことなく、困難な人のために祈れるようになりたいです。

聖書は、謙遜の大切さを私たちに教えてくれています。謙遜については、今、カトリック生活の「原語をとおして読む聖書」のコーナーで連載をやっていますね。真の謙遜とは、イエスが教え、また示してくださったものです。イエスは、ご自身が罪人を救うために来た主であるにもかかわらず、弟子たちの足を洗うほど、へりくだります。これこそ謙遜の神髄ですよ。

謙遜が問われるのは、不当性、不条理性にあってです。まさしくこれは刑務所のことであり、刑務所は謙遜を学ぶのもってこのところだと思えます。イエスは謙遜の模範を示し、互いにゆるし合って生きなさい、と教えました。私はキリスト者として、イエスの教えを実生活において実践できるよう、努めなければなりません。私にとっては困難な課題ですが、幸いなことに、師がいます。イエスが最高の模範を示してくださったのです。こつこつと精進して参りたいと思います。

微笑みの力

一兵さん

微笑みは、何気ない会話や、単調な日常生活に潤いをもたらしてくれます。その微笑みを受ける人に、忘れられない幸せな気持ちを

与えることもあるかもしれません。それは微笑みが、多くの場合、相手への愛から生まれるからだと思います。

微笑みといえば、私はマザー・テレサを思い出します。インドの貧しい地域で厳しい奉仕活動をしているときも、彼女は決して微笑みを絶やさなかったそうです。治る見込みのない病人に食事を施し、身体を拭き、排便の世話までしていました。そんなときも彼女は微笑むことを忘れたかったそうです。そうして世話をしてもらった人たちは、涙を流して、最後の力を振り絞るように、感謝を口にしながら亡くなられたそうです。

マザーが一生をかけた奉仕活動は、ノーベル平和賞の授与というかたちで評価されましたが、彼女はただ目の前の、世間から見放されたような人たちに微笑みを持って接することと、「あなたも神に愛され、この世に生まれた大切な人です」というメッセージを伝えただけなのです。

私たちにも、同じようなことができると思います。どんな仕事に従事していても、人に奉仕して人を幸せにするために働くことができると思います。必ず。そこには互いに微笑み合える場面があるはず。そして、人に奉仕して人の幸せのために働くこと、微笑み合うことによって、互いに自分の人生に誇りを持てるようになると思います。

マザー・テレサは来日したとき、世間に問いかけてました。「忙しすぎて微笑む暇も、愛を与えたり受け止めたりする暇もない。そういう生活になっていませんか」と。日々の生活の中で、人を見てゆったり微笑む時間、愛を受け止める時間が互いにあれば、今より良い人間関係が生まれ、良い環境になっていくのではないのでしょうか。

微笑むことは、祈ることと同じで、どんな場所でもできます。本文を読んでくれている皆さん、早速、今日から微笑んでみませんか。

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

認知症のケア

こんにちは。今年は、台風に左右されたお盆休みでしたね。その後からさらに暑くなりましたが、皆さま体調はいかがでしょう？施設内も、熱中症対策が少しずつ浸透してきているように感じています。命に関わるこ

とですので、施設内の環境整備には留意して欲しいと願うばかりです。また、劣悪環境下で生命に関わると感じられた事例がありましたら、マザーハウスまでご報告・相談してください。

先月号では、アンケート調査の結果をご報告させて頂きました。結果をご覧になり、ご意見等がありましたら、お知らせください。

来月以降、施設内で生活される皆さまの中で、健康維持増進ケアモデルを実施しても良いと考えてくださる方を対象に、六回に渡ってケアモデルの実施をさせて頂きたいと思えます。お手紙のやり取りでの実施確認となりますので、実際には対面での指導までには至りませんが、その点をご了承頂きたいと思えます。また来月号で希望者を募らせて頂きます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

前文が長くなりました。今月号では、認知症のケアについてお伝えしたいと思えます。

認知症治療薬も開発されて来ていますが、完治するまでには至っていないのが現状です。そのため、今の認知症状がさらに悪化しないようなケアが必要だとも考えられています。北欧やイギリスでは、国の施策として、高齢者ケアの標準化が高齢者施設で行われています。日本の方が、短期間において高齢社会になっているのですが、未だに日本式認知症ケアは確立されていません。そのため、何

をしているかという点、海外で実施されている認知症ケアの内容を翻訳して、日本でも実施できるように開発しています。しかしながら、それらの方法は、日本人に適合しているか、介護人材不足に対応できるのか、ということろまでは充分ではありません。

矯正施設においても、高齢化が進んでいるのは否めません。たしかに刑務官の負担増になっていることと思います。しかしながら、かといって、受刑者が高齢受刑者を介護するという構図は、本来、矯正教育ではないと考えます。もしも、高齢者の介護を矯正教育、刑罰とするならば、なおさら高齢者ケアについて学ぶ体制が整った上で実施すべきであると考えています。例えば、布団から椅子への移動方法、トイレ介助、オムツ交換など、専門的知識が必要です。知識が無い中で行うと、「介助者の腰を痛める」「オムツ交換によるノロウイルスの感染」などにも繋がります。

今回は、認知症ケアに関してご紹介します（別紙の表をご参照ください）が、他に興味のあるケアがあれば、お知らせください。また、皆さんの健康の守り方に関しても、これから、口腔ケア、腰痛予防体操、高齢になったときの起き上がり動作をご紹介していきます。と思います。

この表（別紙）は、認知症ケアメソッドについてのものですが、私自身が調べ上げまとめた内容になりますので、オリジナルです。

つぶやき！

私の好きな三浦綾子さんの言葉です。「自分自身の身に起きたことなら嗤（わら）えぬことを、他人事なら嗤うという冷たさは、決して許されることではあるまい。嗤うべきことは、他人の失敗や不幸を見て嗤うおのれ自身の姿ではないだろうか。人を嗤った時、その時の自分こそ嗤われる人間なのだ。わたしたちは何を嗤うべきかを知らねばならぬ」(『明日のあなたへ——愛するとは許すこと』より)。

この中では特に、いじめられて泣いている者を見て笑う者が多く居ます。(M刑 Nさん)

頂いた資料に、「百万人の福音」があり、最初のページに、こんな言葉が書いてありました。「多くの人を招き、たくさんの人を癒し、貧しい人、独りぼっちの人にも触れてくださった優しい手、その手には釘のあと……その御手の中に私も飛び込んでいきたい」。

こんな私でも、その御手の中に飛び込みたいと思いました。(F刑 Tさん)

専門インストラクター ニロ先生による

プリズムアート倶楽部

★このコーナーは、絵画の模写を体験するものであり、絵画技法の習得を目指すものではありません。模写(アレングOK)の投稿を募集中です。
★当技法についての詳細を知りたい方、また、作品発表等について考えている方は、規定が設けられていますので、必ずご相談ください。

「秋桜の花束」



【解説】ボタニカルフラインアート技法とパステルアートのコラボレーションで描いていますが、ボールペンや鉛筆等、入手し易い文具で描いてくださって結構です。ボールペンは、PILOTの細いペン等が推奨されていますが、描きやすいと感じるもので良いと思います。鉛筆は、形が見やすいよ

うに、B以上のもので濃く描くと、質感も柔らかく、描きやすいです。HBやH等ですと、固い質感の為、描きにくいかと思います。

文通をされている方は、見本の絵を色々アレンジして、便箋や封筒に描くと、楽しく可愛いアクセントになりますので、ぜひお試しください。

【今月号のコツ】秋桜の花びらの中心部分に、線を細く数本描いてください。花びらの外側の部分は、丸みをつけて、波線で描き、ギザギザの線にならないように意識して、表現してみてください。茎も葉も、細い線で描いてみてください。全体的に、ふんわりと優しい気持ちで描かれると、可愛い花束を描く事ができます。小さな花束は、描いても描かなくても、お好みで大丈夫です。一つひとつの絵の形は、ハンドペイントの良さを生かして、不揃いでも、何でも構いません。

このイラストでは、秋桜の花束を描いていますが、他の花でアレンジして楽しんでみてくださいね。絵は、自分の中のイメージを表現する事が大切なので、自由に、楽しみながら、表現してください。

回復プログラム 入門

★このコーナーでは、自分の心を書き出す練習をします。マザーハウスの回復プログラムに既に挑戦しておられる方も、ぜひ取り組んでみてください。

【コツ】綺麗に書こう、丁寧に書こうとせず、リラックスして、出てきた思いをそのまま乱雑に書き出す。後でやろうと思わず、一行書くだけでも、今やってみる（看板イラストの枠をお使いください）。

【補足】よろしければ、書いた内容を事務局にお送りくだされば幸いです（たより掲載の可能性もあるので、掲載を希望しない方は掲載不可と明記してください）。また、ノート等に写し、後で見返せるようにすることをおすすめします。

【今月号のテーマ：こわい】

①今までで最も「こわい」と感じた経験は何ですか。

②私はよく、どんなときに「こわい」と感じますか。また、「こわい」と感じるとき、私はいつもどうなりますか（体の状態、心の状態など）。

③「こわい」と感じたら、私はいつもどういう行動を取りますか。その行動を取ると、どうなりますか。

①	②	③
---	---	---

ご支援 本当にありがとうございます！

7月11日～8月7日の寄付金

合計：158,000 円

（内 愛のプリズム宣教基金：38,000 円）

お知らせ・編集後記

お読みくださり有難うございます！今月号は、原稿の入力が終わり、さあ持ち帰って徹夜で編集するぞ！（夜中の方が集中できるため）と、家で張り切って編集作業を進めていたら、「理事長挨拶のデータを忘れたー！」という事態に…。泣く泣く早朝を待って、理事長にメールで原稿を送っていただきました…。毎回何かしらハプニングがあります…。

★聖書を希望する受刑者の方は、郵送料800円分の現金書留または切手を、「聖書希望」と明記したお手紙と一緒にお願いします。

それでは、来月号もお楽しみに！

編集局

行事予定

▼9/18～20

美祢社会復帰促進センター視察

▼9/29 ミサ終了後～

カトリック前橋教会にて、
講演「人生を変える出会いの力」

▼10/4 14:00～

千代田区更生保護女性会にて、
講演「人生を変える出会いの力」

▼10/12 14:00～

聖イグナチオ教会内 岐部ホール404号室にて、
「文通講座」（VIP プリズム）

▼10/13 13:00～

立正大学にて、健康調査報告会

マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）

＊製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX: 03-6659-5270

メール: maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格: 粉200g または 豆200g …… 900円+税
カフェドリップ10g (1回分) …… 100円+税



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま（順不同）☆

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック
所沢教会／カトリック浜松教会／カトリック東山教会／
カトリック布池教会／カトリック菊名教会／カトリック中
和田教会／カトリック新子安教会／カトリック碑文谷教会
／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック東仙台
教会／カトリック春日部教会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／
カトリック松戸教会／カトリック太田教会／カトリック大分教会／カトリック多
治見教会／カトリック芦屋教会／カトリック鷺ノ宮教会／ドン・ボスコ社／
クリスト・ロア宣教修道女会／日本カトリック神学院／聖母訪問会



☆ルワンダの祈り☆

ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺
がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワ
ンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥り
かねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。
マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用し
ております。

獄中POSTシリーズ

＊獄中ボランティアの方が描いた絵画や文字を、
ポストカード・封筒・便箋に印刷する企画です。

FAX: 03-6659-5270

メール: motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org (QR ↑)

入手方法: 講演会等での販売のほか、ご注文を受け付けております。

☆ポストカード／封筒は1枚300円、便箋は10枚300円

☆ホームページにカタログ（随時更新）がございます。

☆収益は全て、身寄りのない方の住宅支援に充てられます。

また、ご寄付・ご支援くださった方に、デザイン等ランダム
でお贈りしております。



マザーハウスたより 9月号

発行日: 2019年9月15日 発行責任者: 五十嵐 弘志
〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-17-102 NPO法人マザーハウス



↑ 理事長 Facebook ↑ 理事長奥さんブログ ↑ MLP問合せ

ラウレンシオ（便利屋業）

＊元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、
掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。

TEL: 080-4614-8508

FAX: 03-6659-5270

メール: lawrance@motherhouse-jp.org (QR →)



古本募金（きしゃぽん）

＊書籍やDVDを下記送り先にご寄付頂くと、

マザーハウスに還元されます。

送り先: 〒358-0053 埼玉県入間市仏子916

マザーハウス きしゃぽん係

（マザーハウス事務所に送らないようお願いください）

TEL: 0120-29-7000

カウンセリング

＊当事者やご家族の方を対象に、専門家がカウンセリングを行います。

※価格は別途かかります。

メール: counseling@motherhouse-jp.org (QR ↓)



お問合せ

いつも有難うございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL: 03-6659-5260

メール: info@motherhouse-jp.org (QR →)

ホームページ: 「NPO マザーハウス」でご検索ください。(QR ↓)



ご支援

☆正会員（一口5000円／年） ☆賛助会員（一口3000円）

☆社会復帰支援（ご寄付）を随時募集しております。

→振込口座名:

特定非営利活動法人 マザーハウス 【トクヒ）マザーハウス】

郵便振替口座 … 00170-0-586722

みずほ銀行 … 新宿支店 普通口座 2376980

☆洋服等の物資の送付先:

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-1F マザーハウス

(TEL: 03-6659-2110)